ったりすることのないよう留意する必要ある。そのためには、児童の学力の定着状況を学習の進行具合に即して丁寧に把握していく必要がある。

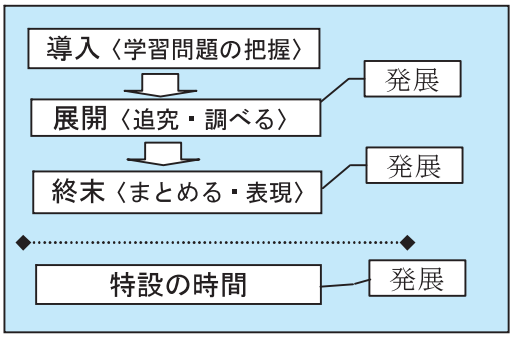
4　発展的な学習における評価の基本的な考え方

発展的な学習においても、個性の一層の伸長を図る観点から、学習内容に関わる子供のよい点を積極的に評価していくことは重要であり、適切に評価することが大切である。具体的には、児童一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などの評価（個人内評価）を重視し、学習指導の過程において、適宜、評価の結果を児童に伝えることにより、その後の学習に意欲的に取り組めるようにし、指導要録の「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に記入し、その後の指導に生かすことが大切である。

なお、児童の学習状況の評価については、発展的な学習を行ったかどうかに関わらず、学習指導要領に示す目標に照らして、その実現状況を評価する「目標に準拠した評価」によって行うものである。したがって、発展的な学習に取り組まなければ高い評定（小学校における「３」や中学校における「５」）などを付けないということではないことに留意する必要がある。

5　本指導資料の活用について

本指導資料における指導事例と教材の活用に当たっては、前記の「１　習熟の程度に応じた指導」から「４　発展的な学習における評価の基本的な考え方」を十分に踏まえた上で、国語・社会・算数・理科における年間指導計画に、組織的・計画的に発展的な学習の指導を位置付けることが大切である。



また、発展的な学習を年間指導計画に位置付ける際には、育成したい資質・能力を明確にし、教科・単元の特性を踏まえ、児童の学力の定着状況等の実態を十分把握した上で、「単元の指導計画の過程」「単元の指導計画の終末」「特設」に位置付けるなど、効果的に位置付ける必要がある。

また、指導形態については、教材の特性及び児童の実態に応じて、個別指導、グループ別指導、一斉指導など、効果的な方法をとる必要がある。

本指導資料の事例は、次のようなフレームによって構成している。

１　事例の概要（○時間扱い）
ここでは、学習指導要領における単元の位置付けやどのような発展的学習を行うのかを記述してある。

２　指導計画の位置付け
ここでは、「１　単元の指導計画の過程（途中）」、「２　単元の指導計画の終末」、「３　指導計画外の特設された時間」、「４　４５分の初・中・終末」に位置付ける等、その位置付けを記述している。その際、単元間の関連が分かるよう時間数（○時間、○分）も記述してある。

３　目　標
「思考・判断・表現」、「知識・理解」、「技能」、「関心・意欲・態度」の４観点から、本事例で培いたい資質・能力を重点化・焦点化して、記述してある。

４　学習活動の展開
・学習内容・学習活動　実際に指導事例をみて、授業ができるよう「具体的な学習活動」、「学習内容・予想される児童の反応」を記述してある。
・指導上の留意点　発展的な学習を指導をする上での留意点を記述している。
・資料等　授業で使用するワークシート、資料等を記入してある。
・評価[方法]　評価内容、評価の観点、評価方法等を記述してある。

５　資料等
表、グラフ、読み物、図やワークシート等、授業に活用できるようにしてある。